

学校法人高知学園
高知リハビリテーション学院

学院報

学院報第13号

学校法人 高知学園
高知リハビリテーション学院

平成22年12月20日発行

発行

学院報編集委員会

〒781-1102
高知県土佐市高岡町乙1139-3
Tel 088-850-2311
Fax 088-850-2323
http://www.kochireha.ac.jp/
E-mail:kochi-reha@kochireha.ac.jp



これからのリハビリテーション 学院への抱負②

学院長 大倉 三洋

高知リハビリテーション学院は昭和四十三年に私学で最初の理学療法士養成施設として定員一学年二〇名（三学年六〇名）からスタートし、昭和五十年に三年制から四年制に、また平成五年には作業療法学科、平成九年には言語療法学科をそれぞれ開設しリハビリテーション医療専門職種の三本柱を養成する総合養成教育機関に発展してまいりました。

高知学園短期大学がある旭キャンパスからスタートしましたが、少し手狭になつたこと、また土佐市から熱心な誘致の話もあり、平成十年十月に現在の土佐市高岡町に校舍新築移転をいたしました。早いもので、今年で十二年目を迎えています。移転当初は各学科入学定員が三〇名、総定員三六〇名からスタートした学院も平成十四年に入学定員を四〇名に、また平成十七年には理学療法学科の入学定員を更に四〇名から七〇名、学生数も六〇〇名と増加し、学生数の増加にともない幾つかの問題点もでてまいりました。

一つは図書室が手狭になってまいりました。本院の図書室の所蔵冊数は現在約二一、〇〇〇冊と移転当初の約二・五倍になっております。また本院の学生一人当たりの年間平均貸出冊数は二十三冊でありこれは国公立大学や私立大学の平均貸出冊数の九冊と比較しても本院

の学生がいかに図書室を利用しているかを窺い知ることが出来ます。もともと四八〇名の学生を対象に作られた図書室であり、書架、閲覧スペース、グループワークを行うスペースも手狭になってきており、新しい図書館（情報ライブラリーセンター）の建築の必要性を感じています。また、学生数の増加にともない自家用車で通学する学生の数も増え、現在約二五〇名の学生がマイカーを利用して通学している。駐車場確保のため、従来の運動場も今では学生用の駐車場となっており、学生が思い切つて運動のできる運動場の確保もしていかなければならないと思っております。

学院を取り巻く環境は少子化による十八歳人口の急激な減少、養成校の急増特に大学での養成教育が主流となつてきていることなど、益々厳しさを増してきています。

幸い本院には宝であります一九〇五名の卒業生がおります。これからも卒業生との絆を大切に、土佐市のご協力を仰ぎながら開校五十周年に向け（図書館の建築、運動場の確保など）教育環境の整備を中心に行うことから積極的に取り組んでいきたいと考えております。

★★★ 学 院 祭 ★★★

言語療法学科 三年

青木 優歩

私は三年間、学祭委員を務めました。一年生の時は初めての学院祭ということもあり、先輩の指示に従うことしかできませんでした。二年生の時は先輩の仕事をサポートしたり後輩に教えたりと、学祭委員としての責任感が出てくるようになり、そして三年生になり私たちが学院祭の中心となる自覚と責任感がさらに増してきました。学院祭の前に課題提

作業療法学科 三年

細田 雄大郎

今回の学院祭は私たちの学年にとって最後の学院祭でした。しかし、三年次になって卒業論文や前期試験の勉強などで、学院祭に向けての準備や練習をする機会が少なかったです。しかし、その限られた時間の中で集まれる人たちが集まり、学院祭に向けての練習や準備をしました。

理学療法学科 三年

黒岩 礼奈

まず、一番に感じていることは、無事に学院祭を終えられた、ということだ。当日までの準備は、夏休みもほぼ毎日学校で作業する日々で、本当に大変だったということしか思い浮かばない。その上、去年と今年の二年間しか務めていないこともあり、頼りがいがなかったと思う。しかし、それでも後輩たちはしっかり

出などがあつたり、授業の合間をぬって出し物の練習と学祭委員の集まりに参加するなどとても大変でしたが大きなトラブルもなく、無事に終えることができて本当によかったです。三年間の活動を通じて、人をまとめるということの大変さとチームワークの大切さを学ぶことができ、良い経験となりました。協力して下さった外部の方、先生方、学生のみなさん、ありがとうございます。

その時にはクラス全員が学院祭を成功させようという気持ちで十分に伝わってきました。その全員の気持ちで学院祭で伝わり、私たち作業療法学科三年次生はクラス自慢で悲願の初優勝をとることができ、クラス全員が喜び合いました。また、今回の学院祭ではクラス全員参加が初めてだったので、クラスが今まで以上に一つになることができ、クラス全員が最高の思い出になりました。

と付いてきてくれた。クラスの皆も従ってくれた。何より、先生方や同じ仲間のフォローがあった。皆の力で素晴らしい学院祭ができたのだ。短期間の経験ではあったが、学んだことは数え切れないほどある。これらすべてはきつと臨床の場をやり遂げるための大きな糧となるだろう。私は、学院祭委員という仕事をさせていただいたことを誇りに感じています。



学院祭を終えて

学院祭実行委員長

作業療法学科 三年 吉本 知世

今年度の学院祭では、毎年恒例の外部の方々や教職員、各クラスの出店、クラス自慢や一般の方々も参加できるピング大会などに加えて、CMコンテストやクイズ大会などの新しいイベントも行いました。出店では予定時間より早く終わるほどの売れ行きの良さで、イベントでは各クラスの団結力と達成感のあるアピールで大盛況となりました。

私は、昨年度は実行委員の一人でしたが、今年度は委員長という大役を任されることになりました。初めはあまり実感が湧きませんでした。学院祭が近くなるにつれて、実行委員で集まる回数も増え、慌ただしくなると共に、責任の重さや自身の未熟さを痛感しました。そんな時に、教職員の方々が温かく、時には厳しく指導してくださり、また実行委員やクラスの友人が温かく声をかけてくれました。そのおかげで、

最後まで諦めずにやり遂げることができたのだと思います。今回、このような貴重な経験をさせて頂き、今後少しでも成長できるように努力していきたいと思えます。広告や出店などでご協力いただきました地域の方々にも感謝しています。本当に、有り難うございました。



学生生活について

言語療法学科 二年

井浦 沙也香

私の学校生活を一言で表すと、「出会い」です。入学してから二年が経ち、様々な人と出会いました。その中でも一番大きな出会いは、仲間との出会いです。仲間と過ごす日々の中で、新たな自分に出会うことが出来ました。

特に今年の学院祭では、仲間との絆がより一層深まりました。夏休みから練習してきたスト

作業療法学科 二年

小林 友里恵

入学して一年半が経ちました。入学したときには新しく始まる様々なことに少し戸惑いや不安でいっぱいだったけれど、いまは一人暮らしの環境、クラスの環境にも慣れ、充実した生活を送っています。

入学当時、作業療法の授業は私の想像と違っていて難しく、大変だと思いが多々ありました。二年生になると同時に専門分野の授業が増え、また二週間の見学実習などがあり、意識的にも実際の現場に近づく、実習や授業を重ねるごとに「作業療法士になりたい」という気持ちが強くなっていくのを実感しています。授業では自分たちで考え、実践することが増え、難しさを感じる半面、夢に近づく楽しさも感じています。

学校生活では勉強と趣味を両立させることができ、先輩や後輩、他学科との交流も盛んで、

理学療法学科 二年

岩見 一洋

二年生に進級してまず思ったことは、総務という仕事をこなしていく中で、自分自身が成長できているということです。クラスのまとめ役にまわったりコンパの幹事をまかせられたりと二年生総務で助け合いながらここまで来ることができました。正直、勉強と総務の仕事で大変な時期もありましたが、コンパを終える度に感じる達成感や安心感、みんなが「お疲れさま」

ンブ（日用品のバケツ等を使いリズムを刻むこと）は大成し、思い出に残るものになりました。

勉強はもちろん、一人の人間として大きく成長出来る場所がここにあります。仲間と共に切磋琢磨しながら、自分をさらに高めていこうと思います。日々の学校生活を振り返った時に、その一瞬が明日の糧となるよう、これからも一日一日を大切にしていきたいです。そしてこの生活に感謝出来る人間でありたいです。

困った時には気軽に相談したり、意見を聞いたりしています。また、サークルへの参加やアルバイトなどにより、他学科との交流や地域の方との交流もあり、挨拶や言葉遣いなど一般社会のマナーを学ぶ機会にもなっています。

四月のレクや十月の学院祭などの学校行事には、クラスで一致団結して参加し、絆を深めるきっかけとなっています。学院祭には実行委員として参加し、集団をまとめることの難しさなど、授業では学ぶことのできないことを経験することができました。

親元を離れてからの一人暮らしでは、炊事、洗濯、掃除などの家事をこなせるようになり、体調管理や食事などへの気配りなどから自己管理の重要さを感じています。

これからの学校生活、仲間と一緒に楽しく充実した生活を送り、共に「作業療法士になる」という夢を目指して勉強や実習に取り組んでいきたいと思っています。

と言ってくれる一言のおかげでここまで乗り越えてくることができました。総務の責任感というものをこれからは感じながら、これからの学生生活を過ごしていきたいと思っています。

そして、サークル活動を通じても成長することができました。地道に努力を続ける大切さ、全員がひとつの目標に向かうことでその目標が可能なものになるということ。これらは理学療法士を目指す今、一番大切なことだと思います。一步一步近づいている理学療法士の夢。後悔のない学生生活を送っていききたいです。

よさこい祭に参加して

理学療法学科 一年

沖田 裕和



この夏、初めてよさこいに参加しました。一年生主体で行うこともあり、よさこい委員である僕はみんなをまとめるのに大変苦労しました。

練習では、よさこい委員がみんなの前に立ち、日々の練習を頑張りました。日にちが経つにつれて、みんなの土気

も高まっていき、まとまりのあるチームが出来上がってきました。よさこい委員としても、徐々にではあるが、一つのチームが出来てきてとてもうれしかったです。

本番初日では、猛暑の中、とても楽しく踊ることができました。僕は提灯を持って踊りましたが、大観衆の中でとても気持ちよく踊ることが出来ました。二日目はあいにくの雨となりましたが、逆に雨でテンションが上がって、これまで楽しく踊ることができ、とても嬉しかったです。今回のよさこいを通し、みんなの絆が深まることができました。また、僕もみんなの前に立って踊ることのできる成長が出来ました。

よさこいでは、沢山の人の協力で無事終了することが出来ました。この感謝の気持ちを忘れず、これから勉強に励みたいと思います。



平成22年度後期行事予定表

10月1日	後期授業開始
10月10・11日	学院祭
12月10日～16日	後期定期試験 (3年次生)
12月21日	冬期休業入
1月7日	冬期休業終了
1月23日	学園記念日
2月10日～21日	後期定期試験 (1・2年次生)
2月19日	国家試験 (ST)
2月27日	国家試験 (PT・OT)
3月13日	卒業式
3月21日	春期休業入

レクリエーション大会

理学療法学科 二年 岩門 俊典

今年のレクリエーション大会の委員長を務めさせて頂きました理学療法学科二年の岩門俊典です。今年のレクリエーション大会は四月十六日に行われました。競技はソフトボール・バスケットボール・バドミントン・バレーボール・ドッジボールの五競技を各クラスに分かれて競い合いました。

この大会に向けて各クラス団結し、協力して練習をしていました。本番では、各クラス今までの練習の成果を出し、優勝を目指して一致団結していました。また、四年生にも参加してもらい、より一層大会が盛り上がりました。一年生は入学して初めてということもあり、戸惑うこと等あったと思いますが、この大会を通して新しい友達との絆が深まったと思います。

最後に、私自身初めてのレクリエーション委員長という立場に立ち、分からない部分が多く、迷惑をかけたことが多かったかと思いますが、他の委員にサポートしてもらいこのレクリエーション大会を無事に成功することが出来ました。

来年も今年以上に盛り上がることを期待しています。

クラブ紹介

理学療法学科 三年

野球部 主将 徳弘 佑伊

私たち野球部は、『勝てるチーム』を目標に一年間活動してきました。クラブと言っても高知県の大人たちの中に混じり、社会人野球大会に参加してきました。毎年全国大会にも出場し、一昨年は全国大会である高松宮賜杯二部準優勝、去年は国体七位など成績も残しています。今年も職場早起き野球大会で総合優勝し、来年の十月に長野県で行われる全国大会にも出場が決定しています。

私はチームの主将としてこのチームをまとめることで仲間の大切さを実感しました。私が悩んだり、困ったときなどはチームの全員で問題を解決してくれるとても良いチームです。私はこのチームが大好きです。皆さんと一緒に野球をしませんか？

活動内容は水曜日と土曜日に三時間という短い練習時間ですが、先輩や監督のご指導のもと集中するときは集中する、楽しむところは楽しみながら一年生～三年生まで二六名で楽しく活動しています。経験者だけでなく、初心者の方も大歓迎です。ぜひ練習を一度見に来てください。



就職合同説明会

理学療法学科 教員 平賀 康嗣

今年で第七回目となる就職合同説明会が十月十六日(土)に開催されました。

今年の高知リハビリテーション学院の四年生は、理学療法学科七名、作業療法学科二五名、言語療法学科二六名の卒業の見込みとなっており、理学療法学科においては供給過多による受け入れ病院・施設の不足、作業療法学科においては需要過多による学生不足が心配されました。

しかし、理学療法学科の学生にとっては診療報酬の改正や、回復期病棟の増設に伴う増員を行う病院の参加もあり、予想した以上に多くの病院・施設の説明を受けることができました。作業療法学科の学生は予想通り各病院・施設から説明させていたただきたいとの声を多く聞くことになり、作業療法士の需要の多さを改めて実感することになりました。就職説明を受ける前は自分が行きたい病院・施設以外は興味が少なかった

学生も、様々な病院・施設の説明を聞くことで新たな観点から就職について考えることが出来た学生もあり、今後の病院見学・採用試験の前に面接に関わってくる可能性がある病院説明担当者との話は、短い時間であったものの大変有意義であったとの声も少なからず聞くことが出来ました。

今回の参加病院施設及びグループは四一(高知県内三三、県外八)となり、就職合同説明会の参加施設は平成二十年度二六施設、平成二十一年度三二施設、そして今年度が四一と年々参加状況が良くなっています。このため、今年も講堂だけでは入りきれないため食堂も使用して実施しましたが、いくつか問題点もあったため今後の課題にしたいと思います。

来年度も多数の参加病院施設を確保するため検討をしていきたいと思っておりますのでみなさんの協力を宜しくお願いします。

知つとせ

《それから第12回の巻》

スーパージョー

あまり聞かない言葉ですが、病院や施設に行つて実習（いわゆる臨床実習）するとき、実習生としての学生を指導してくれる人をスーパーバイザー（略してSV）と呼んでいます。

四年次生になると、本学院がお願いしている全国各地の病院に、学生は一人で行つて、アパート生活をしながら約二ヶ月間滞在して、診療の実際を学ぶこととなります。一病院で六週間〜八週間の実習をして、二病院または三病院を回ります。

この臨床実習では他の職種の実習とは違って、学生は実習生として、SVから一対一（man to man）での直接的な指導を受けます。つまり、実際に、患者さんをSVと一緒に診察しながら、患者さんへの接し方など接遇の技術や専門の診療の技術を学ぶわけです。

それぞれの病院や施設で、経験豊富なSVから指導を受けながらみっちり臨床（現場）での技術を学ぶこととなります。もちろん、技量だけでなく人間性もSVから学びます。

臨床実習も授業科目であり、四年間の授業時間のなかでは、重要な多くの時間を割くことになる重要な科目です。したがって、欠席については学内授業とは異なり基本的には欠席できないことになっていますが、当然に合格・不合格と評点が付きます。ただし、成績（評点）はSV個人の評価でなく、臨床実習前の取り組み姿勢や、臨床実習終了後の修得の評価にも含めての、評点となります。

臨床実習は、終了すれば卒業までに卒業研究の科目を残すだけの四年間でのほぼ最後の単位ですが、卒業後に患者さんや障害者の方の診療にあたるようになるため、臨床実習は実践的な技術・知識・そして良識をSVから学びとる大事な科目になります。（教務部 山本）

))) 教 員 紹 介 (((



言語療法学科 稲田 勤

一年生の担任の稲田です。本年度言語療法学科の入学生は男性二五名、女性一五名で、二年生以上の学年とは違って、男性が圧倒的に多い学年となりました。いつもならクラスの男性の割合は多いときで三〇%、少ないときだと一〇%です。理学療法学科では男性の比率が高いのは普通のことですが、言語療法学科ではじめてのことです。当初クラスとしてまとまりが出てくるのか不安な感じを受けました。前期試験を終えた頃にもあまり統一感がありませんでしたが、ほぼ全員が参加したよさこい祭り本番くらいから、若干、意思の統一が見られ始めました。オープンキャンパスや学院祭を経験し、それぞれ割り振られた役割を果たしていく中で、成長していつてくれていることと思います。



作業療法学科 西野 愛

私は、本学院作業療法学科を七期生として卒業し、高知市内の精神科病院にて七年間勤務しました。主に入院中の患者様を対象に関わり、作業療法の楽しさや支援の難しさを感じながら、試行錯誤の毎日を過ごしていました。

この度、四月より本学院で勤務させていただくことになり、今年度は



理学療法学科 山崎 裕司

理学療法士になって二十五年目です。高知リハビリテーション学院に帰ってきてから十年目になります。以前は、川崎市にある大学病院に勤めていました。病院時代の専門は心臓病患者の理学療法でした。心臓が悪いはずなのに下肢の筋力低下によって歩けない方が多いことに驚きました。そこで筋力トレーニングや

下肢筋力と動作能力の関連について

一年生の副担任を担当し、夏にはよさこい祭りに参加することができました。また、後期からは担当科目の講義をする事になり、学生と接する中で若いパワーを感じながら自分身しっかりとした指導ができるようになります。ますます自己研鑽にはげまなければと感じています。

まだまだ未熟なところはありますが、がんばって行きたいと思っております。今後ともご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願ひいたします。

ずいぶん研究しました。十年目以降は人工呼吸器を装着した呼吸器疾患患者の方を担当していました。よかれと思つて、離床や歩行訓練などを勧めるのですが、拒否的な患者さんに沢山出会いました。どうすれば理学療法を受け入れてもらえるかと思案していったとき、行動分析学という学問に出会いました。この学問を利用すると驚くほど対象者の行動が変化しました。今は、この学問を学生教育の場面で大いに活用しています。行動分析学的に適切な行動を取ることが私に課された修行です。

図書室だより

依光 朋子

図書室利用度 アップをめざして

平成二十二年度より、「メディカルオンライン」という新しい文献検索サイトの利用が始まりました。検索結果の医学論文

をすぐダウンロードできる大変便利なサイトです。以前は図書室に所蔵がないものは、他の大学図書館や病院図書室から取り寄せていたのですが、メディカルオンラインで入手できるものが増え、高知リハ図書室内で文献をまかなえる率が高まっています。

前期は臨床実習中の四年生を中心に利用していました。実習期間中は文献が必要なため、月平均の利用は約一、六七〇件と膨大な件数となり、実習生の味方となつていたようです。後期からは学生全員が使えようという環境も整つたので、レポート課題等大いに活用してくれればと思います。

また、後期から土佐市民図書館より本を貸していただくことになりました。ほぼ医学書しかなかった図書室に、休憩時間にリラクセスして読める小説や料理の本などを展示しています。思った以上に興味を持ってパラパラめくったり、借りていったりするので、好評なのではないかと感じています。一般書を置くことが図書室に足を運ぶ理由の一つになればと考えたのですが、この先益々利用が増えればと願っています。これからも図書室で快適に過ごせる・学習できる環境を提供できるよう、心がけていきたいと思ひます。



全国で活躍する卒業生シリーズ⑬

リハビリテーション病院

すこやかな杜 言語聴覚士

言語療法学科二期生

北川 純平



私の勤務する病院は、高知市春野町にある回復期リハ病院で、開設されてまだ三年ほどの新しい病院です。昨今の法改正を追いかけながら、当院も本年度より三百六十五日体制でのリハビリ提供が可能となり、年を経る毎に回復期リハとしての形を成してきつつあるように思います。STの対象となる疾患は、失語症や構音障害、高次脳機能障害、摂食・嚥下障害等々、多岐に渡っており、また、外来においては小児への訓練も実施しており、言語発達遅滞や自閉症、知的障害等々こちらも幅広く対応をさせて頂いております。

私自身は現在、臨床経験九年目であり、来年度にはもう十年目を迎えることとなります。そう考えると、学生時代が遠い昔のような、ついこの前のような。十年一区切りとは申しますが、就職以来、当院系列の急性期病院や小児外来、老人保健施設等での勤務を経て、現在は回復期と、ある意味濃密なST人生だなど実感しております。実習中を含め、社会に出た時点での自分を振り返ると、本当に幼かったと頬を赤らめることも多く、それなりに経験を重ねた今でも、様々な疾患を持つ患者様方と携わる中で、自問自答の毎日を送っています。しかし「石の上にも三年」とことわざにもあるように、臨床を続ける内に自分なりのSTの在り方が見つかるのではないかと思いながら、九年目の今も「昨日よりも今日成長していきたい」という気持ち

ちで過ごしています。

臨床以外のことには触れませんが、平成十九年度から四年間に渡り、高知県言語聴覚士会の理事をさせて頂いております。懇親会や種々の企画、また県内STの勤務状況に関する待遇調査等、主に会員の福利厚生を担当していますので、高知県士会へご入会頂ければお目にかかれる機会も多いかと思えます。そういった活動の折、平成二十一年度には学術集会を開催させて頂きました。大会長として右も左も分らない中で、他の理事方や会員の皆様方からの御協力、激励を頂きながら、どうにか無事終える事が出来ました。また二十二年度には、高知新聞社の「あしすと健康アドバイス」にも原稿を書かせて頂く等、この数年で仕事の幅も少しずつ広がっていることを実感せずにはいられません。自分自身、活躍している、とは少しも思っておりませんが、今後も出来る限りのことを経験していきたいと思っております。

最後に、地方病院で勤める中で日々感じるのですが、これからの日本における我々のような職業ニーズは、今後も確実に増えていくだろうと思っています。皆様も、ぜひ自身のセラピストとしての在り方を問いながら、貴重な学生生活を、またより良いST人生を送って頂けるよう、一セラピストとして願うばかりです。

大綱まつりに参加して

理学療法学科 一年

多田 勇心

今年の八月二十一日に大綱まつりに参加しました。

大綱まつりの由来は、約三三七年前の承応三年(一六五四年)土佐藩の家老野中兼山が、土佐市高岡町の東部を流れる水清い鎌田井筋の工事建設にあたったさい、この工事が想像以上に困難を極めたために、大綱を引かせて工事人達の士気を高め、工事の進歩をすすめたのが始まりといわれています。

市内の園児や地元グループの鳴子踊りパレード、大綱太鼓の演奏、バス引きやチーム対抗綱引き等の催しのほか、ラストを飾る長さ七〇m、胴回り一・八m、重さ一・二トンもの大綱を使った南北大綱引きを楽しめます。

私は、バス引きと

チーム対抗綱引きに参加して、二種目ともみごと優勝することができました。

相手チームには、外国人チームなどもいて正直、勝てると思ってい

ませんが、若

でなんとか勝つことが出来ました。来年も新しい一年生が参加すると思いますが、是非、二連覇を目指して頑張ってもらいたいです。



保健室だより

上村 孝子

私は、八年間育児に専念して、久々の社会人復帰で、今年の十月から保健室勤務として入職した上村と申します。

十一月に吹く風がずいぶん冷たくなってきました。日中の気温差が大きくなってきました。

この時期は、体調を崩す人も多くなりがちです。十月の一ヶ月間で、風邪症状で保健室に来室した生徒数は延べ四二名で、保健室来室生徒数の六〇%近くを占め、症状別分類で第一位でした。皆さんご存じ、この時季の私たちにとっての大敵であるのがインフルエンザです。インフルエンザは風邪と違います。三十八℃以上の高熱と頭痛や関節痛などの全身症状で、五日間近く寝込むこととなります。予防方法

は風邪とほとんど同じですが、日常生活で予防するのが一番です。もし、かかったと思ったら、すぐに医師の診断と治療を受けてください。皆さんが、有意義で充実した学生生活を送るためには、第一に「健康である」ことが最も重要になります。「健康である」ことへの過信や無関心から、時として不摂生になり、無意識のうちに過労が続き、思いがけない病気を招く結果となりかねません。生活習慣病の若年化も問題視されている昨今、自分の身体は自分で守るという自主管理の精神を大いに養い、日頃から健康管理を怠らないように注意しましょう。

保健室では、身体の調子すぐれない時はもちろん、さまざまな相談にも応じていますので、遠慮なく来室してください。